

大会名	第72回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会				チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	延長	合計
期 日	H30.6.2	会 場	TKCいちごアリーナ	試合No.	日体大 柏	17	22	28	14		81
審 判	(主) 大河原則人	(副) 山崎 雅洋	山岸 大輔	A 5	前 橋 育 英	17	6	14	20		57

日本体育大学柏高等学校(千葉)

コーチ 野澤 亨 A・コーチ 福士勝哉 マネジャー

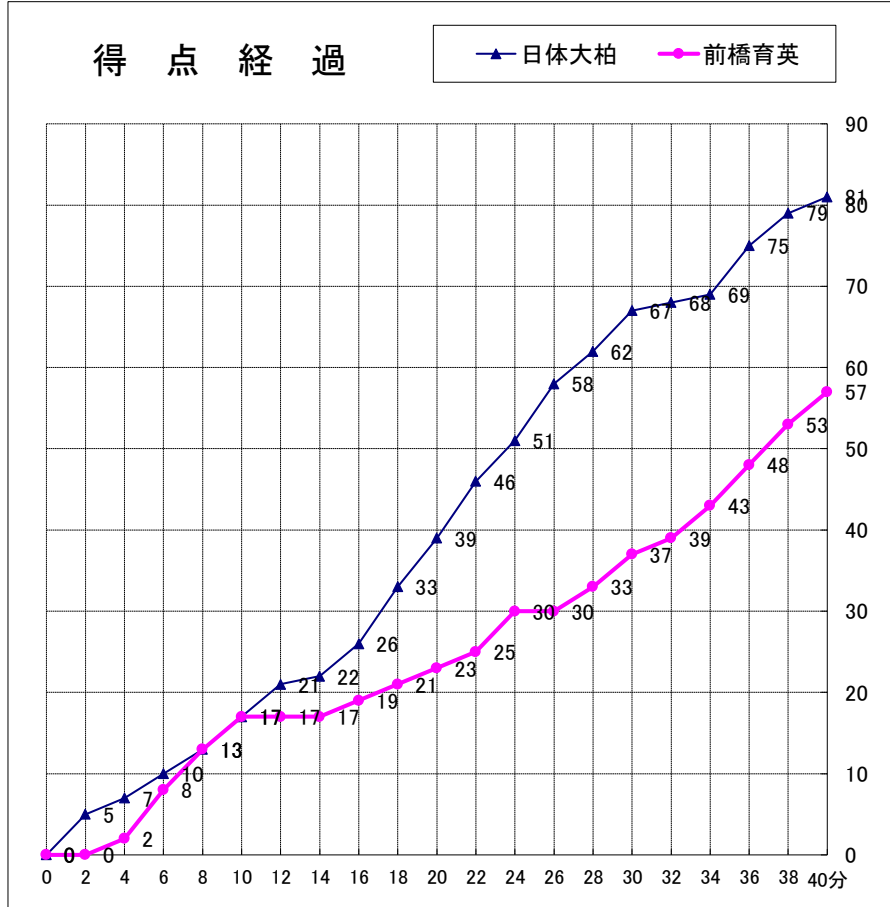
選手名	背番号	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド		
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	合計
澤田 樹	4	6	1	1	1	5	1	2	1	0	1	1
飯塚 環	5	4	0	0	2	3	0	0	1	0	4	4
松岡龍平	6	2	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0
小市涼太	7	4	0	2	2	3	0	0	0	0	1	1
高橋輝記	8	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
高橋唯人	9	3	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1
ケイタ シェイク ボーバカー	10	22	0	0	10	12	2	5	1	0	14	14
広橋悠磨	11	0	0	1	0	3	0	0	2	1	1	2
西島来哉	12	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1
飯泉陸斗	13	7	0	0	1	3	5	5	0	0	1	1
中村小太郎	14	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0
ダウダ ジャキエ	15	31	0	0	11	26	9	14	4	0	23	23
渡辺優介	16	2	0	0	1	3	0	0	2	0	0	0
伊藤倭麻	17	0	0	1	0	1	0	0	1	0	2	2
森 友矢	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チ ャ ム									0	0	0	0
合 計		81	2	9	29	61	17	28	17	1	49	50
成功率			22.2%		47.5%		60.7%					

前橋育英高等学校(群馬)

コーチ 加賀谷 寿 A・コーチ 鈴木 隆之 マネジャー 永井 優斗

選手名	背番号	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド		
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	合計
近藤 虎ノ介	4	6	1	6	1	5	1	2	0	1	2	3
萩原 健斗	5	6	0	0	3	8	0	0	3	1	2	3
土田 昇平	6	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	3
入澤 翔	7	4	0	0	2	6	0	0	2	1	2	3
村上 翼	8	4	0	1	2	4	0	0	0	1	1	2
齋藤 亮太	9	7	1	3	2	2	0	0	1	0	2	2
鈴木 海都	10	4	0	0	2	4	0	0	0	1	0	1
野本 康悟	11	10	0	6	4	9	2	2	2	1	1	2
永井 優斗	12	2	0	1	1	1	0	0	2	0	1	1
田中 勇颯	13	5	0	0	2	9	1	6	3	3	5	8
高橋 佑太	14	7	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0
船戸 海惇	15	0	0	0	0	4	0	0	3	1	3	4
渡部 輝	16	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	1
石川 昂	17	2	0	0	1	3	0	0	1	0	1	1
茂木 健太朗	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2
チ ャ ム									0	4	3	7
合 計		57	3	22	22	57	4	10	21	16	27	43
成功率			13.6%		38.6%		40.0%					

得点経過



戦評

二回戦、接戦を制して駒を進めてきた日体柏と、高さはないが粘り強いバスケットで初戦を立ちあげてきた前橋育英の一戦。両チームともにディフェンスは、ハーフマンツウでスタートした。序盤から日体柏は#10ケイタのゴール下にボールを集めて得点を稼ぐ。前橋育英は、激しいディフェンスから速攻に繋げ、#11野本が強気なドライブが決める。残り1秒、日体柏#15ダウダのミドルシュートがブザービートとなり、17対17の同点で第1ピリオドを終えた。第2ピリオド、日体柏はゴール下を徹底して攻め続ける。前橋育英のディフェンスファウルが増え、じわじわと点差が開いていく。残り2分、日体柏#6松岡のスティールからのレイアップシュートが決まり、14点差がつくと前橋育英たまずタイムアウト。少しでも点差を縮めて後半を迎えたい前橋育英。外角のシュートを狙うがなかなかネットを揺らすことができず、39対23日体柏リードで折り返しを迎える。後半、序盤から日体柏の#10ケイタがゴール下でポイントを量産。#4澤田の3Pも決まり、一気に前橋育英を引き離しにかかる。対する前橋育英は、#11野本や#4近藤の外角のシュートで応援するが、相手のオフェンスを止めることができず、点差が縮まらない。その後も日体柏は#15ダウダのインサイドが高確率で得点に繋がり、67対37の日体柏の30点リードで第3ピリオドを終える。最終ピリオド、前橋育英はさらにディフェンスのプレッシャーを強め、#13田中のポストプレーや#9齋藤、#14高橋の3Pで最後の追い上げを見せるも及ばず、81対57で日体柏が勝利して準決勝への進出を決めた。前橋育英の攻防の切り替えには素晴らしいものがあった。今後の成長にも期待がかかる。

記入者 小山 幸広